

吉村文男先生退任記念特集号によせて

吉村文男先生は、平成15年に京都教育大学から本学へ着任されて以来、8年間にわたり在職され、今年(平成23年)の3月に退任されました。その間、情報学部における高等学校教員資格「情報」の教職課程を完成され、現在既に80人以上の卒業生が情報の教員資格を持つに至っております。また、平成19年4月に開設したビジネス学部においても、「公民」、「商業」の教職課程設置に御尽力を頂き、その後は2学部の「教職科目」を、ほぼ一人で受け持って頂きました。ビジネス学部においては、昨年度、第1期生の中からすでに教職資格を有する卒業生を出しております。先生には現在も非常勤講師としてそれらの科目を担当して頂いております。

専門の教育哲学関係においては、本学在職中の平成18年に『学び住むものとしての人間』を出版されました。そこでは、人間にとって「学ぶ」ことはその存在の意味に関わる最も重要な行いであることを「住む」という概念を使い見事に解説されています。今年の3月には、『ヤスパース — 人間存在の哲学 — 』を出版されました。これは、教育哲学というよりも、哲学そのもの、まさに哲学することの本源の意味を問う論考で、五百頁を越す大著であります。先生からお聞きしたところによると、すでにヤスパースについて10本以上の論文を著されていますが、それらとは全く別の「書き下ろし」であるというお話でした。退職一月前の畢生の大著の出版はお見事としか言いようがありません。

紀要一巻すべてが『特集号』にならなかったことは誠に残念ではありますが、同学の花岡永子先生、板倉代志彦先生、そして先生と共に今も読書会を持つ竹山理先生、日下耕三先生の方々に、それぞれ教育学関係、哲学関係の論文と研究ノートを寄稿して頂きました。それらを捧げることによって先生への感謝の念の一端とさせていただきます。

最後になりましたが、今年三月の退職記念講演会では、日常に埋没している私達にとって、久しぶりにアカデミックなお話を拝聴させて頂き感激致しました事を付記させていただきます。

先生の益々のご活躍とご健康を祈念し、「吉村文男先生御退任記念特集号」へのご挨拶と致します。

奈良産業大学学長 藤 原 昇